



令和6年度 業務実績レポート

業務実績の詳細は、令和6年度業務実績等報告書をご覧ください。
(http://www.famic.go.jp/public_information/tsusoku/houkoku/)

- 1 肥料及び土壌改良資材関係業務
- 2 農薬関係業務
- 3 飼料及び飼料添加物関係業務
- 4 食品表示の監視に関する業務
- 5 日本農林規格、農林水産物及び食品の輸出促進等に関する業務
- 6 食品の安全性に関するリスク管理に資するための有害物質の分析業務
- 7 その他の業務



1 肥料及び土壌改良資材関係業務

業務名		実績
農林水産省からの緊急要請業務		実績なし
登録関係業務	肥料の登録申請に係る調査及び農林水産大臣への結果の報告件数	701
	肥料の原料・生産工程の変更に係る相談への対応件数	466
肥料の立入検査等業務	立入検査件数	198
	収去品の分析点数	139
土壌改良資材の立入検査業務	立入検査件数	26
	うち要指導として技術的助言を実施	3
	集取品の分析点数	21
肥料の工程管理及び品質管理に関する業務	大臣確認調査※1 件数	17
	大臣確認検査※2 件数	5
	センター確認検査※3 件数	36
肥料の安全性及び品質の確保に関する支援業務	未利用資源の肥料利用拡大に向けた対応	事業者からの事前相談に対応ブロック会議等で検査手法の講習を実施
	仮登録※4 申請に係る調査件数	農林水産大臣からの指示なし
	仮登録※4 申請に係る肥効試験件数	農林水産大臣からの指示なし
	事業者からの公定規格改正の申出に係る対応件数	事業者からの申出なし
	汚泥肥料中の放射性セシウム測定件数	41
	家畜ふんを原料として使用している汚泥肥料等のクロピラリド測定件数	20
	クロピラリドに係る取組の周知件数	21
	肥料の外部精度管理試験を実施する肥料生産業者及び都道府県肥料検査指導機関及び分析機関に対する技術的助言等	農林水産省からの要請に応じ、技術的助言等を実施 都道府県の分析担当者に対し、 ①肥料等試験法に係る分析研修（9名） ②植害試験に係る栽培研修（4名）を実施
調査研究業務（課題数）		8

- ※1 菌体りん酸肥料の品質管理計画について、保証成分の安定化を図るための基準に適合するかを確認する調査
 ※2 牛の部位を原料とする肉骨粉等について、農林水産大臣からの指示に基づき牛脊柱等が混入しない工程で製造していること等を確認する検査
 ※3 肥料原料用の豚、家さん等に由来する肉骨粉等について、農林水産省が示す製造基準に適合していることを確認する検査
 ※4 公定規格に定めのない普通肥料の生産又は輸入に際しては、銘柄毎に農林水産大臣の仮登録を受けなければならない

Pickup!

新たな肥料試験法の開発と普及改良の取組

- 肥料の生産事業者は、肥料の製造や流通過程でどれだけ有効成分が減るかを確認する必要があります。その方法として苛酷試験を行います。各生産事業者が行う方法や条件がバラバラだったため、肥料生産事業者や農林水産省からの要請で、新たな苛酷試験法を開発しました。
- 苛酷試験法は前処理方法を整備したもので、これまでの肥料等試験法とはタイプが異なるため、解説動画を作成してFAMIC公式YouTubeで事業者に限定公開して周知し、試験方法の理解や試験条件の統一化を進めました。



2 農薬関係業務

業務名			実績
農林水産省からの緊急要請業務			2
農薬の登録及び再評価に係る業務	基準値設定 必要農薬	農林水産大臣からの審査指示件数※5	524
		農林水産大臣への年度内報告件数	85
	基準値設定 不要農薬	農林水産大臣からの審査指示件数※5	959
		農林水産大臣への年度内報告件数	644
	再評価	農林水産大臣からの審査指示件数	1,610
特定試験成績の信頼性の確保に関する業務	農薬GLP※6 制度に基づく調査を実施した試験施設数		19
農薬の立入検査等業務	立入検査件数		38
	集取品の分析点数		5
農薬の登録審査に 附帯する業務	農薬の安全性その他の品質に関する科学的知見の収集及び解析		科学的知見を収集及び解析し、農林水産省に提供
	農薬の登録制度等に係る国際会議への参加等（農薬行政の国際調和への貢献）		OECD生物農薬専門家会合（EGBP）に参加
			国際農薬分析法協議会（CIPAC）に参加。また、正会員の継続決定
			OECD GLP作業部会に参加
	農薬使用でへい死した可能性のある蜜蜂に含まれる農薬の定量（結果報告件数）		13
	生物農薬の審査の更なる充実に向けた検討		天敵農薬及び微生物農薬の生物学的特性や各種試験成績の概要等のとりまとめ様式を示した「ドシエガイダンス」案を作成し、農林水産省に提供
農産物中に係る農薬の使用状況及び残留状況調査業務	再評価に係る申請者からの事前相談への対応		・農林水産省と連携して申請者に対応 ・事業者向けに農薬GLP講習会を開催（53施設）
	残留農薬分析件数		237
	(内訳) 野菜・果実類		180
	(内訳) 米穀		57
調査研究業務（課題数）	残留農薬分析研修		・残留農薬分析基礎研修（座学1日） ・残留農薬分析技術研修（実技を含む3日）
			6

※5 前年度から審査を継続し、令和6年4月1日時点での審査未了農薬を含む

※6 Good Laboratory Practice：優良試験所規範

農薬GLP講習会を初開催

- FAMICでは、農薬登録申請時に提出される試験成績の信頼性を確保するため、試験を行う施設に対し農薬GLP 調査を行っています。
各試験施設に農薬GLPの理解を深めてもらうため、農薬GLP講習会を開催しました。
- その結果、参加者の農薬GLPに対する理解がより深まり、信頼性の高い試験成績を用いた農薬の登録に貢献しました。



Pickup!



3 飼料及び飼料添加物関係業務

業務名		実績
農林水産省からの緊急要請業務		実績なし
飼料等の立入検査等業務	立入検査件数	207
	収去品の分析点数	204
	要指導として技術的助言を実施件数	1
愛玩動物用飼料（ペットフード）の立入検査業務	立入検査件数	62
	集取品の分析点数	111
	要指導として技術的助言を実施	要指導対象なし
牛海綿状脳症の発生防止関係業務	大臣確認検査件数※7	198
	センター確認検査件数※8	21
安全性確保に関する検査等業務	基準・規格等の妥当性調査件数	2
	薬剤耐性菌発現モニタリング調査件数	9
	飼料等のモニタリング検査点数	574
	(内訳) 飼料中の飼料添加物	13
	(内訳) 有害物質	392
	(内訳) 病原微生物	59
	(内訳) 肉骨粉等	110
	(内訳) 遺伝子組換え体	0
ISO/IEC 17025※9 認定		認定を維持
検定等関係業務	飼料添加物の検定件数	90
飼料等の製造工程管理及び品質管理等に関する検査等業務	GMP適合確認検査件数	104
	(内訳) GMPガイドラインに基づく適合確認※10	103
	(内訳) 抗菌剤GMPガイドラインに基づく適合確認	1
	特定飼料等製造業者及び規格設定飼料製造業者の調査件数	0
	輸出証明検査件数	11
	エコフィード認証制度及びUCオイル認証制度に係る確認検査件数	4
	飼料製造管理者認定講習会参加人数（e-ラーニング及びCBTにより開催）	113
	顧客満足度※11	4.2
	GMPガイドラインの研修	研修会参加人数（e-ラーニングにより開催）
		顧客満足度※11
		メールマガジン配信回数
	外部精度管理を実施する飼料等製造業者等への技術的助言及び協力件数	160
	登録検定機関の技術的助言	要助言対象なし
WOAH※12 コラボレーティングセンター関係業務	①飼料研究報告の要旨英訳 ②令和5年度特定添加物検定結果の英文翻訳 ③WOAH活動報告書の提出 ④ラボネットワーク参加各国の飼料検査状況のレポートとりまとめ、共有 ⑤WOAHアジア太平洋地域事務所と共催でワークショップを開催 ⑥視察等の受入	
調査研究業務（課題数）		7

※7 肉骨粉等の製造工程が製造基準に適合しているかの確認検査

※8 肉骨粉等を原料とするペットフード等の製造事業場が製造基準に適合しているかの確認検査

※9 試験所及び校正機関の能力に関する一般要求事項

※10 飼料等の適正製造規範（GMP）ガイドライン（平成27年6月17日付け農林水産省消費・安全局長通知）に基づき、申請に応じて、製造管理及び品質管理の方法が適切になされているか確認する検査

※11 5段階評価の平均値

※12 World Organisation for Animal Health：国際獣疫事務局

牛肉骨粉の豚鶏用飼料への利用再開

- 国内で牛海綿状脳症が発生して以来禁止されていた豚及び家きんへの牛肉骨粉等の利用が、令和6年に再開されました。FAMICは短期間で効率的に確認検査を行い、安全な国内たん白資源の有効利用に寄与しました。

Pickup!



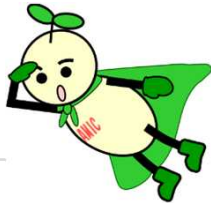
4 食品表示の監視に関する業務

業務名			実績
農林水産省からの緊急命令等業務			実績なし
食品表示法に基づく 立入検査等業務	立入検査	件数	11
		事業所数	14
		延べ回数	49
		入手した試料の科学的検査件数	60
	行政部局要請調査 ※13	件数	12
		事業所数	25
		延べ回数	28
		入手した試料の科学的検査件数	19
食品表示の科学的検査 業務	科学的検査件数（総数）		5,479
	うち疑義が認められた件数	うち原産地表示検査件数	99
		(内訳) 生鮮食品	2,546
		(内訳) 加工食品	1,384
			1,162
	うち遺伝子組換え表示検査件数	259	
	うち機動的モニタリング検査※14件数	37	
	うち行政機関等からの要請による検査件数	253	
食品表示110番等対応 業務	不適正表示や違法なJASマーク表示に関する情報を関係部局へ回付した件数		30
	食品表示110番に係る科学的検査件数		13
調査研究業務（課題数）			13

※13 農林水産省、都道府県等からの要請による任意調査等

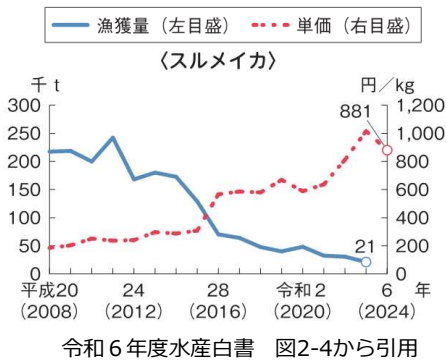
※14 分析疑義が判明した時点で速やかに買上げ及び検査を追加実施して疑義の継続性・広域性等の確認を行う検査

Pickup!



食品表示監視 ～スルメイカのDNA分析～

漁獲量と価格推移



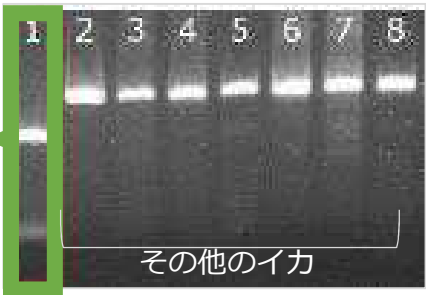
- スルメイカは、アカイカ科に属するイカ類で、生食用のほか、干物（するめ等）、さきいか、塩辛などの加工食品の原料として広く利用されていますが、イカ類の中では国内漁獲量が最も多いものの、近年大幅に減少しています。
- 国内で流通するいか加工品の原材料には、スルメイカ以外にアメリカオオアカイカ、アカイカ、アルゼンチンマツイカ、カナダマツイカなども使われています。
- しかしながら、いか加工品は、目視による種の判別は難しく、科学的検査が有効です。

スルメイカとイカ加工品



スルメイカの判別 (PCR-RFLP法)

スルメイカ



- 「スルメイカ」と表示されたいか加工品について、最初に簡便なPCR-RFLP法を用いて、スルメイカと国内で流通する他のイカ類を判別します。ここで「スルメイカ以外」となった場合は、さらに判別の精度が高いDNAシーケンス法で判別します。

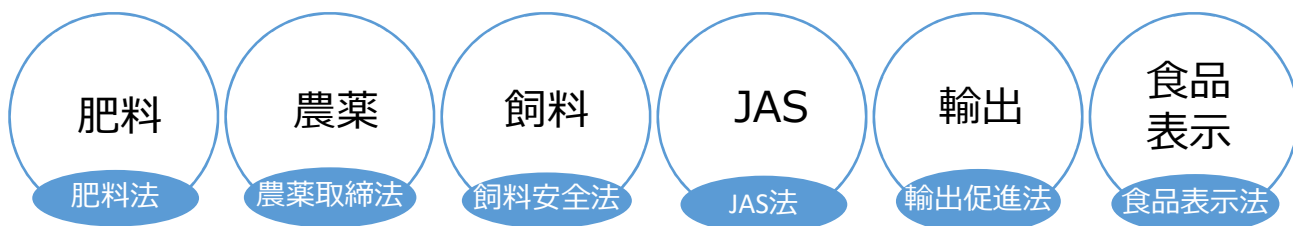
5 日本農林規格、農林水産物及び食品の輸出促進等に関する業務

業務名				実績	
農林水産省からの緊急命令等業務				実績なし	
J A S	JASの制定等に係る業務	JAS制定に係る原案作成 又は検討件数	FAMICによる原案作成	3	
			事業者団体等による検討のサポート	10	
		JASの見直しに係る原案作 成又は検討件数	FAMICによる原案作成	10	
			事業者団体等による検討のサポート	12	
		JASの普及	英文翻訳規格数	7	
		各国の有機認証制度の同等性協議に 関する調査	審査及び協議国 (地域)数	継続して実施中	
		林産物に用いる接着剤の同等性能確認	確認数	15	
	国際規格に係る業務	ISO国内委員会の開催		3	
		ISOの規格策定及び改正への貢献のために参画している プロジェクト数		56	
		うち発行済みの規格数	8		
		ISO国際会議への派遣回数		38	
		Codex国内会議への出席回数		8	
	登録認証機関等及び 登録試験業者等に対する 調査等の業務	登録認証機関等に対する 調査	登録及び更新調査件数	8	
			(内訳) 登録調査	1	
			(内訳) 更新調査	7	
変更調査件数		166			
登録試験業者等に対する 調査		登録及び更新調査件数	実績なし		
変更調査件数	1				
JAS法に基づく 立入検査等業務	登録認証機関等に対する 立入検査	農林水産大臣への報告件数	91		
		(内訳) JAS法違反の疑い	3		
		(内訳) 資材評価に係る 立入検査	2		
		(内訳) 認証業務の確認	86		
		事業所調査	69		
		製品検査施設調査	42		
		立会調査	178		
	登録外国認証機関等に対 する検査	農林水産大臣への報告件数	16		
		事業所調査	17		
		製品検査施設調査	6		
	登録認証機関等の技術能 力確認調査	調査件数	308		
		(内訳) 現地調査	30		
		(内訳) 製品調査	278		
	行政部局要請検査	報告件数	要請なし		
	J A S a f f	認定制度に基づく 認定業務	認証機関又は試験業者の 認定	審査件数	10
認定業務の啓発			継続的な啓発		
国際相互承認に向けた取組		試験所認定分野の相互承認締結の申請が令和7年2月APAC事務局に受理、製品認証分野は維持			
輸 出 促 進	認定農林水産物・食品 輸出促進団体への協力	輸出促進団体の規格策定への協力件数		1	
	登録発行機関及び登録 認定機関の登録及びその 更新の申請に係る調査	登録認定機関等に対する 調査	登録及び更新調査件数	6	
			(内訳) 登録調査	1	
			(内訳) 更新調査	5	
	変更調査件数	13			
	輸出促進法に基づく 立入検査等業務	登録認定機関等に対する 立入検査	農林水産大臣への報告件数	5	
			(内訳)事業所調査	2	
(内訳)立会調査			3		
行政部局要請検査	報告件数	要請なし			

6 食品の安全性に関するリスク管理に資するための有害物質の分析業務

業務名		実績
農林水産省からの緊急命令等業務		実績なし
サーベイランス・モニタリング 年次計画に従った分析業務	依頼分析件数	1,065
	(内訳)小麦及び大麦中のかび毒	735
	(内訳)モリアザミ中のピロリジジナルカロイド類	16
	(内訳)はちみつ中のピロリジジナルカロイド類	6
	(内訳)農作物中のタリウム	120
食品安全に係る有害化学 物質の分析能力の確立	(内訳)食用植物油及び乳児用調製乳等の3-MCPD脂肪酸 エステル類及びグリシドール脂肪酸エステル類等	188
	課題数	6
	○作成した標準作業手順書（SOP） ・ICP-MSによる玄米中のタリウム分析標準作業書	
	○SOP作成の取組を農林水産省に報告した危害要因 ・乳児用調製乳（粉、液体）中の3-MCPD脂肪酸エステル類、 3-MCPD、グリシドール脂肪酸エステル類、2-MCPD脂肪酸エス テル類及び2-MCPDの分析法の性能検証	
	・乳児用調製乳（粉、液体）中の3-MCPD脂肪酸エステル類、 3-MCPD、グリシドール脂肪酸エステル類、2-MCPD脂肪酸エス テル類及び2-MCPDの分析能力の確立 ・鳥肉製品、魚節及び削り節中の多環芳香族炭化水素類 ・燻製食品中のオルトフェニルフェノール及びジフェニル ・紅麹及び関連製品中のシトリニン及び紅麹から検出される有 害物質	
サーベイランス・モニタリングの 確認分析業務	分析実施点数	115
	(内訳) 無機ヒ素（Ⅴ価＋Ⅲ価）	90
	(内訳) アクリルアミド分析点数	25
ISO/IEC 17025認定の維持（更新審査）		認定を維持

FAMICは、肥料、農薬、飼料の安全性の検査、食品の表示監視やJAS制度の推進、国際関係業務などが主な業務です。新しい分析技術などの調査・研究も行っています。



農場から食卓までフードチェーン全体の安全と安心に貢献



農林水産省の「サーベイランス・モニタリング計画」に基づき、農産物及び飼料中の重金属、かび毒などの微量有害物質の分析調査を行い、その結果を農林水産省に報告しています。



- かびの中には、人体や動物に有害なかび毒（マイコトキシン）を作り出すものがあります。
- 令和6年は麦類の赤かび病が多く発生し、農林水産省から麦類のかび毒について追加の調査依頼があり、優先的に分析・報告しました。

Pickup!



7 その他の業務

業務名				実績		
カルタヘナ法※15 関係業務				実績なし		
情報提供業務						
ホームページ等 による情報提供	ホームページ	顧客満足度※16		4.0		
		更新回数		203		
		アクセス回数		693,298		
	メール マガジン	顧客満足度※16		4.0		
		配信回数		49		
		登録者数（令和6年3月末）		4,870		
		延べ配信数		239,310		
	広報誌	顧客満足度※16		4.2		
		発行回数		4 紙版3回(毎回5,000部)+web版1回		
	事業者等からの 講師派遣依頼等	顧客満足度※16		4.5		
講師派遣		派遣回数		58		
		延べ参加者数		5,642		
委員派遣		派遣回数		53		
データベース化されたテキスト等の件数		79				
企業等からの相談件数		4,803				
(内訳) 肥料		3,477				
(内訳) 土壌改良資材		68				
(内訳) 農薬		56				
(内訳) 飼料及び飼料添加物		634				
(内訳) 愛玩動物用飼料		47				
(内訳) 食品		521				
講習会の開催		顧客満足※16		4.4		
	事業者	技術講習会回数		6		
		うち残留農薬分析研修回数		1		
	都道府県 職員等	消費生活センター職員等ブロック研修回数		6		
		飼料等安全性検査技術研修回数		2		
検査・分析に係る信頼性 の確保及び業務遂行能力 の継続的向上	分析業務の 精度管理		外部技能試験参加回数		11	
	技術研修の実施件数				34	
	(内訳) 中堅職員技術研修				1	
	(内訳) 外国語力強化研修				1	
	(内訳) 業務技術研修				32	
関係機関との連携						
国民生活センターとの連携			依頼による分析件数		0	
			招へい回数		4	
国際技術協力要請			専門家の派遣回数		1	
			海外研修員の受入回数		1	

※15 遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律

※16 5段階評価の平均値

Pickup!



海外研修員の受入れ

海外からの研修生を受け入れ、講義や施設見学、分析実習等を行っています。

施設見学
～さいたま～



専門家の海外派遣

国際協力専門家としてFAMICの職員を海外に派遣しています。

技術実習
～ベトナム～

